



秋田県立養護学校天王みどり学園 研究だより NO.5

平成27年10月21日 発行

ippo(いっぽ)

10月7日(水)は、高等部の職業科Aグループ(一般就労希望)の公開研究協議会事前研究会を行いました。高等部の研究と提示授業を通して、小・中学部の取組についても再考する機会となりました。

【平成27年度 研究主題】

キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成
～児童生徒がやりがいと手応えを感じる授業づくりを通して～



【学部で目指す姿】

小学部	やりたいことや好きなことを見つけて夢中で遊んだり、教師や友達と一緒に遊んだりする姿
中学部	目標に向かって、仲間と共に最後までやり遂げる姿
高等部	社会参加を目指し、集団や地域の活動に主体的に取り組む姿

職業科Aグループ『将来の生活3～仕事と生活～』

卒業後に一般就労を希望している1～3年生22名の学習集団です。11月に迫った実習に向けて、休日や実習中の休憩時間の過ごし方を考える中で、仕事をする 것과生活習慣が深く関わることを実感し、日常生活を見直し主体的に改善しようとする気持ちをもつことをねらいました。学年別のグループに分かれ、その中で「自分で考える→友達と意見交換をする→いろいろな考えを知る・深める」ことを大事にしました。



付箋紙に自分の意見を書いた後は、友達と意見交換。2、3年生は、過去の実習の経験を振り返り、実習中の休日や休憩時間の過ごし方を考える。1年生は初めての实習に向けて、2、3年生の意見から知ることも多い。

協議から・・・

ワークショップによる協議を実施しました。授業改善に向けて意見の多かったことや大事なポイントをまとめます。本授業だけでなく、日頃の授業づくりにおいても心掛けていきましょう。

具体的なめあてを

めあてを絞って、具体的にすることが、生徒の具体的な考え、行動、理解につながる。

生徒が自ら動ける支援を

- ・「発表してもらいます」→「一つだけ発表してもらいます」明確な指示により、生徒が自ら活動できる。
- ・司会進行のマニュアルがあれば、グループ内の話し合いに対する教師の介入が減る。

聞く・話す態度の形成

「聞く・話す」等の学習ルールは大事な学習レディネス。

小学部から丁寧に積み重ねたい力である。

ICT 機器を効果的につかうには？

- ・プレゼンポインターで遠隔操作をすることで、教師が立ち位置を変えたり、生徒を見ながら進めたりできる。
- ・挿絵を使用するときは、文字も添えて、正確な情報を伝える。
- ・見せるものの大きさ、順序等、教師の意図通り見せる工夫を。

意見交換を深めるには？

- ・考える、判断する、気付くための時間を十分に設定する。
- ・出された意見を見合う、つなぐ、ふくらませる、生徒が結論を導き出せるような工夫を。
→生徒に任せる？ヒントや手掛かりをもとに進める？選択肢を準備する？等々、授業のまとめを想像して具体的な手立てを講じる。

…………指導助言 特別支援教育課 阿部裕子 指導主事より…………

- ・生徒が安心して話せる環境づくりがなされている。
- ・聞く、話す態度を育てたい教師の意図が、よく現れている。
- ・知識の獲得だけにならないよう、内容の精選をする。
→生徒が「自分のこととして」考える、「何のために」行っているのか分かる学習活動を。
- ・テーマが同じでも、学年の積み重ねは異なる。
→積み重ねのある指導計画、目標をもっと明確にする。
- ・日常生活場面に生かすための仕掛けを工夫する。
→ワークシートの効果的な活用(分かりやすい振り返り、自己理解につながる振り返り)

生徒自身が必要性を感じて、考えて、答えを出す姿を目指した授業づくりを

自分はこんなふうになりたい！

自分で！